

## 浙江省韭山列島のヒガシシナアジサシ繁殖群調査初報

陳水華<sup>1</sup>・顔重威<sup>2</sup>・範忠勇<sup>1</sup>・陳蒼松<sup>1</sup>・張方鋼<sup>1</sup>

1 浙江自然博物館 2 台中自然科学博物館

訳 福井和二

摘要；2004年7月28日～8月2日，浙江省象山韭山列島省級海洋生態自然保護区において，オオアジサシ (*Sterna bergii*) 繁殖群の中に，繁殖中期のヒガシシナアジサシ (*S. bernsteini*) の混群を発見した。観察によりオオアジサシ 3500～4500羽，ヒガシシナアジサシ 10～20羽を数えた。これは2000年に，馬祖群島において発見されて以来，2つ目のヒガシシナアジサシの繁殖群である。

ヒガシシナアジサシ (*Sterna bernsteini*)，英名 Chinese Crested Tern はカモメ科鳥類の中でも非常に数の少ない種類である。Wetland International の Population Estimates (3rd edition)<sup>[1]</sup> の記述によると，ヒガシシナアジサシの全世界の個体数は50羽に充たないとある。記載によると，ヒガシシナアジサシは我が国東部沿海一帯の夏鳥で，インドネシア，フィリピンでは冬鳥とある。国内では1913年福州，1925年福州，1937年青島で，それぞれごく少数の標本が記録され，その後，インドネシア，マレーシア，タイ，フィリピン，および我が国の北戴河，黄河三角州，台湾などで目撃の記録はあるが，いずれも確実なものではなく，さらに，繁殖地，繁殖の状況にいたってはわずかな記載もなく，鳥類学者のあいだでこの種は絶滅した可能性があるといわれていた<sup>[3,4]</sup>。2000年6月，台湾の鳥類写真家梁皆得等が馬祖島において意外にも，4羽のヒガシシナアジサシ繁殖個体と4羽のヒナを発見した<sup>[5]</sup>。この発見は内外の鳥類学者の注目を集め，この世にヒガシシナアジサシが存在することを実証し，馬祖島の繁殖個体群が世界における唯一の繁殖個体群であることがわかった。

2003年6月7～23日，2004年6月15～20日，浙江自然博物館と台中自然科学博物館が連合して，舟山群島における繁殖海鳥資源の研究組織を結成し，浙江省北部，とりわけ舟山群島海域の繁殖海鳥の資源状況，ならびにヒガシシナアジサシの繁殖個体を探査することを趣旨として，繁殖海鳥の系統的な調査を行なった。この2回の調査中，カラシラサギ (*Egretta eulophotes*)，ウミネコ (*Larus crassirostris*)，エリグロアジサシ (*Sterna sumatrana*)，ベニアジサシ (*S. dougallii*)，マミジロアジサシ (*S. anaethrus*)，オオアジサシ (*S. bergii*) など多くの繁殖群が見られたが，ヒガシシナアジサシは決して見ることはできなかった。2004年7月28～8月2日，浙江自然博物館の研究者3名が象山韭山列島省級海洋生態自然保護区を調査したところ，一つの小島で，オオアジサシの大きな繁殖中の混群に，まさに繁殖中期と見られるヒガシシナアジサシの群を発見した。午前9時30分島に上陸し40分間観察を行なった。

韭山列島は舟山群島の南端にあたり，寧波市象山県爵溪鎮に属し，北緯 29° 22' 30" ～29° 28' 36"，東経 122° 09' 18" ～122° 15' 24" に位置する。東は東支那海に臨み，西は牛鼻山水道を隔て大陸に接し，大陸との最短距離は爵溪鎮の長嘴頭まで 18.5km である。韭山列島は 76 の島嶼 (島 28，岩礁 48) からなり，面積は 7.3km<sup>2</sup> である。この列島は気温が温暖で，四季が明確であり，冬温暖で，夏涼しい。雨量も多く，年平均気温は 16.4°C，最高最低の温度差は 22.0°C，1月の平均気温 5.5°C，7月の平均気温 27.0°C である。年平均雨量は 1522mm，最大 1809mm，最小 1277mm，年間雨天 160 日。島は風が強く，風向は季節によって明らかに変化

する。4～8月は東南の風、9月から翌年3月までは北風が盛んに吹く。大気の湿度は6月が最大で88%、12月が最小で69%、春は秋冬季に比べ湿度が高い。

混群の繁殖していた島は、無人の小島で、150×130m、面積約1.5km<sup>2</sup>、最高海拔41mである。島の植被は灌木と草本が主である。灌木ではイヌビワ (*Ficus erecta*)、トベラ (*Pittosporum tobira*)、マサキ (*Euonymus japonicus*) 等で、灌木と草本は島の中央部の窪地に集中し、西北部と東南部は共に突起部で、やや平坦な岩盤と土の部分があり、オオアジサシとヒガシシナアジサシの混群が繁殖している巣の場所は、この両端の岩盤か、わずかな枯れ草に覆われた土の部分、および周囲が草に囲まれた場所に営巣している。巣は、これらの域内に平均して分散しており、孵化した雛を見ることはできなかった。ヒガシシナアジサシの上体は灰白色で、上体が灰褐色のオオアジサシとは飛行時に、容易に識別できる。ヒガシシナアジサシはオオアジサシの群に平均して混在しており、したがって何回かカウントして、1視界内に平均して4～5羽いると、視界範囲120°をもって計算すると、ヒガシシナアジサシの数は12羽内外となる。2つのコロニーの巣と卵を数えたところ、1760巣を数え、その95%が1巣1卵で、少数の1巣2卵があり、1巣3卵というものが3～4巣あった。この2つのコロニーの中に、2種類の卵があり、そのほとんどがオオアジサシの卵で色は乳白色または灰白色で、黒褐色、または黒色の明確な点状または線状の斑紋がある。他のもう1つの卵は大きさ、卵形は前述の卵と変わらないが、比較して色が白く、斑点の数がすくなく、きわめて少ないものもあり、色がぼやけている。確認していないが、後述の卵がヒガシシナアジサシのものであると推測しており、北西コロニーで2巣、南東コロニーで3巣、計5巣を観察した。いずれも1巣1卵であった。この2種類の巣は、営巣場所選択に区別はなく、巣も簡単で、枯れ草の上や、地面の窪みに直接産卵しており、巣間距離は平均35cmであった。一部の個体が採食に出かけている午前10時頃に調査を行なったが、その時のデータによると、オオアジサシが3500～4500羽、ヒガシシナアジサシが10～20羽であった。

馬祖島での繁殖群は6月下旬にはすでに雛が孵化しており、韭山では未だ繁殖中期で、雛の孵化は見られなかった。中国科学院動物研究所の1925年4月福州、1937年6月青島などで採取された標本および図譜<sup>16-91</sup>でのヒガシシナアジサシはすべて、夏季の繁殖羽で額部分が黒色であるのに、何故か、馬祖島の6月、韭山の8月、共に繁殖期であるにもかかわらず、額の羽毛が白色であった。上述のいくつかの問題点は一層の研究が必要である。韭山列島省級海洋生態自然保護区の施設と保護措置は完全とは言えず、過度の捕獲など人為的な干渉を免れることができない現状である。このコロニーの有効な保護は極度に絶滅の虞があるこの種にとって切迫した課題である。